

## 2026年度事業計画

### はじめに

戦後80年、協会創設75年の2025年度は、当協会は10月の日中友好交流会議を節目として、コロナ後の新たな交流具体化のスタートとなる年のはずでした。

昨年11月、国会内での高市首相の発言が中国側の強い反発を招き、私たちが積み上げてきた日中関係にも大きな影響が出ています。折しも、自国主義が世界の潮流となる中で、当協会は原点に帰り、決して再び戦禍を招くことのないよう、2026年度を「民を以て官を促し、国民の理解を深める年」として活動をしたいと思えます。

年初の1月理事会で、例年の事業とは別に、いくつかの特別事業を束ねた「2026特別事業計画」を提案します。2026年度の継続的な活動として、一連の運動/行事を位置づけ、困難な中でも今取り組むべきことを協会の内外に発信し、運動を広める年としたいと考えております。第一弾が、現状に対する「協会アピール文」の採択であり、協会の信念の本部から発信です。

通常の事業は、必ずしも予定通りの実施ができないかもしれません。準備は怠らず、これまで以上に中国側パートナーとの連携を密にし、民間友好団体の先頭に立つ気概で、日中間にある困難を打開するために努め、柔軟に対応して参ります。

今こそ、歴史に学び、賢者の智慧を範として、多くの仲間との結束を固めて参りましょう。

### 【2026 基本方針】

1. 協会内部、志を共にする協力者とのコミュニケーションを充実させ、機動力のある全国組織としての基盤を固める。
2. 厳しい日中関係の改善に貢献すべく、創始の精神と時代背景を鑑み、信念に基づいた発信と行動で社会での存在感を高める。
3. 行政や民間企業、日中関係に関心を持つ各団体の皆さんの支援の輪をつなげ、それに対応できる各地友好協会や全国本部の機能を刷新/補強していく。

### 【2026 運営方針】

1. 本部委員会の活動を活発化し、それを支える事務局と全国の有志の皆さんとの連携で事業遂行するスタイルを確立し、委員会出向と実行委員会方式事業の浸透を図る。
2. 全国組織として、貢献活動の見える化と寄付制度の整備を行い、公益法人としての継続性と事業遂行力を高めると共に、個々の事業の意義と収支を整理する。
3. 中国側との多面的な交流を、連携パートナーの志向に合わせて模索し、日本で最も信頼される民間友好団体としての役割を担うことを目指す。

### 【2026年度の主要行事】

- ・ 2026特別事業計画の遂行 ①協会アピール文、②全国署名活動（1月、3月）

- |                               |         |
|-------------------------------|---------|
| ③各種勉強会、④全国訪中団                 | (4月～8月) |
| ・ 定例事業継続実施と中日友好協会/中国大使館との連携強化 | (通年)    |
| ・ 宇都宮徳馬会長生誕120周年事業の共催と連携      | (4月、9月) |
| ・ 各地協会と本部とのコミュニケーション強化        | (3月～)   |

## 2026年度特別事業（案）

### ① 協会アピール文作成

困難な日中関係の改善活動のために、協会からのアピール文を内外に発信し、協会内部の意識と結束を固め、社会へのスタンスと存在意義を高める。

中国側と日本側の民が官を促す機会を生み、関係改善への貢献を担う。

日中間の信頼できる橋渡し役を担うために、当協会の姿勢を明確に示す。

2026年度特別事業の理念を伝える拠り所とする。

### ② 全国署名運動

対外的な発信の直後より、協会内部で告知・浸透を図り、各地の協会での共有と賛同を求める。3月の第二回代表者実務者会議の議題として取り上げ、今後の展開を決定する。

全協会の代表者による賛同と署名を集めることを目指し、その結果を、中国側とも共有する。全国訪中団の実施目的の1つとし、署名と共に訪中する大義とする。

### ③ 各種勉強会

日中関係の重要文書や締結時の背景などを改めて理解し、事実に基づいた正しい認識を広め、世界情勢の理解と今後を考える基盤を整える。

協会が主催/共催して行う勉強会以外にも、各地の協会や他の団体が行っている事業とも積極的に交流し、各自の民間日中外交のセンスを磨く

### ④ 全国訪中団

（企画案は、資料8参照）

上記①②を踏まえ、6月～8月に全国の責任者やこれからを担う世代に呼びかけ、協会全体としての訪中団を企画する。

### ⑤ 宇都宮徳馬会長生誕120年記念事業の共催

会長と関係の深い方々を発起人に実行委員会形式で事業を企画し、一連の2026年度特別事業の中核をなすコア事業と位置づけ、共催をする。

○実行委員会にアピール文作成チームを出向して、内容の企画を支援する。

○4月9日に中国文化交流センターで行うシンポジウムを協会で共有し全国から参加する。

○9月に計画中の記念パーティに、VIPをはじめとする内外の来賓を招き、日中関係改善の機会とすると共に、友好交流の中核を担う協会のスタンスを示す。

「不戦の誓い」

「日中友好が最も重要な日本の安全保障」

「世々代々で繋ぐ、日中交流の意義の確認」（日中友好交流会議2025in茨城の大会宣言）



## 例年の継続事業など

### 1. 事業構成（公益事業分類に基づく主要事業）

★の付いた事業は、状況によって実施の延期・中止が考えられます。

#### 事業分類1. 【公1】友好促進交流事業

- |                                      |             |   |
|--------------------------------------|-------------|---|
| 1－1. 日中友好大学生代表団等の派遣                  | (年間3回を予定)   | ★ |
| 1－2. 2026特別事業群の遂行                    | (1月～10月)    |   |
| 全国訪中団の実施、講演会や展示会等の開催                 |             |   |
| 1－3. 日中友好協会代表団等の派遣                   | (年次訪問：11月)  |   |
| 1－4. その他訪中団等の派遣・共催                   | (情報共有・相互参加) |   |
| 1－5. 中日友好協会代表団等の受入                   | (通年)        | ★ |
| 1－6. その他訪日団等の受入事業                    | (通年)        | ★ |
| 他友好団体や、民間交流事業への積極的支援 (後援、招聘支援)       |             |   |
| 1－7. 私設奨学金制度支援（民間団体奨学金運営受託）の募集・選考・派遣 |             |   |
| 1－8. 日中友好都市間交流中学生卓球交歓会 2027          | (計画発表：6月)   | ★ |
| 1－9. 各地日中友好協会交流事業の共催                 | (チャイナフェス等)  | ★ |
| チャイナフェスティバル2027 への協力 (東京/志願都市)       |             |   |
| 1－10. 各種対外事業参加費                      | (活動の見える化)   |   |
| 1－11. 全国女性委員会の交流活動                   |             | ★ |
| 1－12. 全国青年委員会の交流活動                   |             | ★ |

#### 事業分類2. 【公2】中国語/中国文化普及事業

- |                                |  |   |
|--------------------------------|--|---|
| 2－1. 第44回 全日本中国語スピーチコンテスト全国大会  |  |   |
| 2－2. 公費留学生（中国政府奨学金）の募集・選考・派遣   |  | ★ |
| 2－3. 漢語橋中国語スピーチコンテスト運営受託（第二段階） |  | ★ |

#### 事業分類3. 【公3】会報等発行事業

- |                          |  |  |
|--------------------------|--|--|
| 3－1. 機関紙「日本と中国」発行/広報活用事業 |  |  |
|--------------------------|--|--|

3－2．会員向け情報のWeb 発信・ダイレクト発信

3－3．会員活動情報の発信支援/情報共有の研究

会員活動支援のための情報共有基盤整備（LINE、公式HP、グループ活用など）

3－4．対外向け発信機能の研究（SNS活用、アプリ等）

S N S、アプリ等を使った日中現地情報の流通による相互理解の推進

事業分類4．【収1】出版・発信受託事業

4－1．友好手帳 2027年版の発行

4－2．雑誌「人民中国」の販売

事業分類5．【他1】その他の事業

5－1．2027年日中友好新年会等の開催

5－2．都道府県協会との情報交換会議の開催 （年2回、11月/2月）

事業分類6．新規事業・調査段階の事業

6－1．民間のスポーツ交流支援の共催事業 （事業分類1－6相当）

6－2．高校生の研修旅行/リモート交流推進 （事業分類1－6相当）

6－3．テーマ別訪中/訪日団企画 （事業分類1－4，1－5相当）

6－4．貢献活動を通じた活動支援と人材育成 （追加公益事業を検討）

6－5．各地協会が選択できる共催事業企画 （追加公益事業を検討）

6－6．満蒙開拓記念館の見学奨励

6－7．新しい会員制度の追加検討（全国青年委員会の準会員制度）

6－8．寄付に対応する環境整備・基金の検討